

はくぶつかんネット



第44号

平成24年度【5月～8月号】

市制50周年!
復帰40周年!
ぎのわん

開催日

7月25日(水) ▶▶ 8月26日(日)

宜野湾市は、今年「市制50周年」を迎えます。さらに、沖縄本土復帰40周年も重なるという、記念すべき年になります。

そこで!!今年の夏は『宜野湾 50～Ginowan City 50th anniversary～』と題した展示会を開催することに決定。展示会で「ぎのわん」を感じて下さい♪

発行:宜野湾市立博物館
〈TEL〉098-870-9317
〈FAX〉098-870-9316
〒901-2224
宜野湾市真志喜 1-25-1
ホームページ

宜野湾市立博物館

検索



1962年・現在の琉球銀行普天間支店付近より市役所を望む



2012年



1962年・普天間高校前



2012年



1956年・本町通り(普天間)



2012年



街の様子もすっかり変わったケロ

市制50周年

50年前のぎのわんを紹介します♪

◆ 市に昇格できない！？

宜野湾市は50年前は「宜野湾村^{そん}」でした。村役所では1960年頃から市への昇格を計画していましたが、そのためには自治法第5条にのっとり、①人口3万人以上（国勢調査上のデータで）、②町の市街地に60%以上の世帯が住んでいること、③商業・工業・サービス業などに従事する人と同世帯となる人口が60%以上いること、という3つの条件を満たす必要がありました。宜野湾村は②と③の条件を満たしていましたが、問題は①でした。当時の住民登録人口（1962年4月末日現在）は3万人を超えていましたが、昇格基準の目安である1960年の国勢調査人口では約5千人足りなかったのです。1962（昭和37）年1月25日時点で、新しい“市名”の公募もしていたのに、このままでは市になることはできません。

そこで、なんと！！！！基地外に住んでいる外国人約5,600人を含めて3万人になるとしました。こうして1962年7月1日、晴れて私たちの住む「宜野湾市」が誕生したのです。

◆ まちの様子

さてさて、1962年当時の様子を見てみましょう。現在とは人口も基地の規模も違うというのは、想像がつくでしょう。では、宜野湾にも映画館があったということはご存知でしたか？映画館があった事を知らない世代も増えてきました。そこで、宜野湾村にあった映画館の位置を現在の地図にプロットしてみました！当時の様子を想像して下さい♪

☆1962年の宜野湾村の様子☆

人口：31,588名（国勢調査：29,501名）
 基地：全体の46.37%
 映画館：6館

『琉球立法院会議録』立法院第19回定例第20号
 『議会会議録』1962 第1回～4回 参照

☆2012年の宜野湾市の様子☆

人口：94,715名（2012年3月末現在）
 基地：全体の32.37%（2010年現在）
 映画館：なし

宜野湾市 HP、『沖縄県市町村概要』2010 参照



- 1962年
宜野湾村の映画館
- ① 普天間琉映
 - ② グランドパレス
 - ③ 開放地琉映館
 - ④ 普天間沖映
 - ⑤ スカラ座
 - ⑥ 大謝名映画館

復帰40周年

1972年5月15日本土復帰



7月29日・交通変更前(普天間)



7月30日・交通変更後(普天間)

通貨交換は1972(昭和47)年5月15日~20日までに各市町村で行われ、宜野湾市は琉球銀行普天間・大謝名支店、沖縄銀行普天間・大山支店、沖縄相互銀行普天間・大謝名・真栄原支店の計7ヶ所で行いました。当初、日本政府は交換レートを1ドル305円としていましたが、復帰後の経済不安が根強かったため、個人保有のドル現金及び通貨性純資産^{※1}についてのみ360円との差額補償を決定しました^{※2}(写真:下段参照)。しかし、経済混乱は実質的には解消されず、1975年頃まで混乱が続いたようです。

また、交通方法の変更は1978(昭和53)年7月30日に行われました。29日の午後10時をもって通行区の切り替え作業が開始され、翌日30日の午前6時から「人は右、車は左」の交通方法に変更されました。

変更に伴って5月頃から新車の左ドアバス944台が予め宜野湾市のキャンプ・ブーン跡に保管されていました。これらのバスは、変更実施日の深夜に那覇バスターミナルに移管されて運行当日を迎えました。

※1 1971年10月9日に確認された預金資産から金融機関借入金を控除して算定したもの。

※2 現金に関わる給付金は1972年5月22日~8月31日まで、通貨性純資産への給付金は同年6月1日~11月30日までの交換。

『写真集ぎのわん』、『戦後沖縄経済史』参照

おもいで

写真募集

7月25日(水)から始まる展示会『宜野湾 50~Ginowan City 50th anniversary~』では、過去に展示されてきた写真に加え、今まで展示されたことのない新たな写真を、市民の方々に見てもらいたいと考えています。

そこで、市民のみなさんにご協力をお願いします。あなたの家に眠っている、宜野湾の市昇格~本土復帰前後(1960~70年代)の写真(例:子どもたちの遊び・風景・町並み・服など当時の流行がわかるもの)などがあれば、博物館にご連絡をお願いします。提供いただいた写真は、複写後すみやかに返し、選択して展示したいと思います。

◆募集期間:
6月末まで

◆お問い合わせ先:
宜野湾市立博物館

☎ 098-870-9317
【担当:平敷】



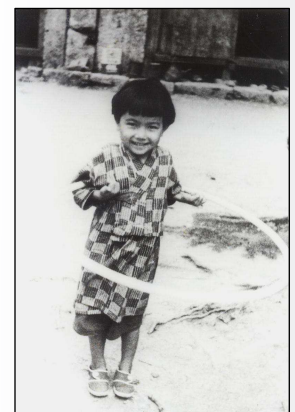
1962年・宜野湾市昇格



1972年・通貨交換における「差損補償給付金」を受け取りにきた人々 (普天間)



ダッコちゃん



一九五九年・フラフィー(野高)



沖縄戦前夜からその終わりまでを
写真パネルと証言で紹介します。

戦後67年、大切にしたい平和・命

焦土化した嘉数高台 1946 (昭和21)年

沖縄戦と 宜野湾

6月13日 (水)



7月1日 (日)

場所: 宜野湾市立博物館 企画展示室
料金: 無料

☆お知らせ☆

常設展示室の一部が新しくなりました♪

1. 宜野湾人の顔



このコーナーは沖縄で発見された港川人と宜野湾の先輩方（大正～昭和生まれ）、子どもたち（小学生）の顔を比較することで、人類の進化を身近に感じて欲しいという意図が込められています。

昨年度は野嵩三区の方々の写真を展示しました。今年度は、喜友名区の先輩方と子供たちの写真になりました♪今年度いっぱい展示しますので、ぜひひ見に来て下さい!!!

ご協力くださいました野嵩三区と喜友名区のみなさん、ありがとうございました。

2. 進化のあゆみ



10年くらい前までは「多地域連続進化説」が定説であり、市立博物館でもこの説にのっとって人類の進化を紹介していました。

しかし、研究が進み現在では「アフリカ単一起源説」が定説となりました。そこで、進化のあゆみコーナーを“新人（ホモ・サピエンス）の拡散”と題してリニューアルしました!!!

●「多地域連続進化説」

約100万年前にアフリカを出た原人が、世界各地で原人⇒旧人⇒新人へと進化したのが現代人の祖先である。

●「アフリカ単一起源説」

現代人の祖先は10万年前にアフリカを出発した新人である。この新人が世界中に広がり、旧人とおきかわって各地の現代人になった。